

## 令和3年度は

今年度も目白押し！

## こんな仕事をします

新型コロナウイルス  
感染症対策

## 社会経済対策

## 感染拡大防止対策

中小事業者等一時金  
(23億6,470万円) ※ 2月補正

県内への特別警戒警報や市内への緊急事態宣言発令に伴う飲食店の時短営業、不要不急の外出自粛の影響で、売上が減少した市内事業者（「営業時間短縮要請協力金」の受給者は除く）に一時金を支給します。

新型コロナウイルス感染症対策費  
(8億5,166万円) ※ 2月補正含む

PCR検査などの実施体制を引き続き整備するとともに、陽性者に対して適切な医療を提供します。また、医療従事者が安心できる環境づくりのため、抗原検査キットを配布します。

商店街等にぎわい復活支援費  
(2,000万円) ※ 2月補正

商店街や飲食店街などのにぎわいを復活させるための団体が実施する取り組みに対し、支援します。

## 7つのテーマに沿った仕事

## 1 デジタル化の推進

デジタル化推進費  
(1,926万円)

地域の実情を踏まえたデジタル化の課題を解決するため、デジタル化の専門的知識を持つ外部人材を登用し、連携して市全体の情報化・デジタル化を推進します。

## 2 脱炭素社会の実現

日常生活と事業活動の脱炭素化  
再生可能エネルギーの導入推進  
(4億3,707万円)

2050年までに二酸化炭素排出の実質ゼロのまちを目指して、市民・事業者の環境行動促進や再生可能エネルギーを活用した地域活性化を推進します。今年度は、道路や公園照明灯のLED化、公用車6台を電気自動車へ転換し災害時に避難所の電源として活用するなど年間約6,600トンのCO<sub>2</sub>を削減するなど、取り組みを加速します。

# 3 長崎開港 450 周年

## 長崎開港 450 周年記念事業費 (6,500 万円)

今年長崎が開港して 450 周年となることから、この節目の年を季節ごとの記念事業を通して、長崎のまちが港とそこから広がる海洋とともに発展していくことを、市民・県民が認識し、行動を起こす契機の年とすることを目指します。

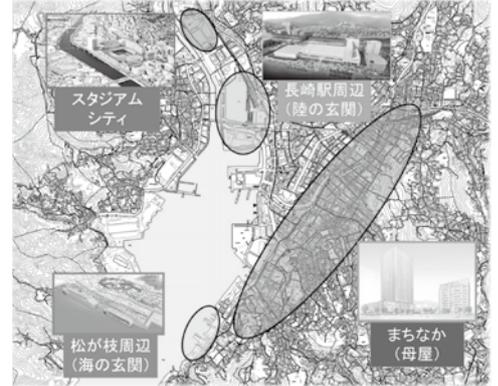
# 4 平和の発信と世界への貢献

## 国際会議への出席・平和の文化の醸成 (2,324 万円)

核不拡散条約 (NPT) 再検討会議や核兵器禁止条約第 1 回締約国会議で、長崎の平和の思いを世界に訴えます。また、スポーツや芸術などをきっかけに、多くの人々が気軽に平和を考える「平和の文化の醸成」に取り組みます。

# 5 次の時代の基盤づくり

長崎のまちは 100 年に一度とも言える大きな進化の時期を迎えています。これからの数年間は、これまで取り組んできたまちの基盤づくりの成果が、次々と形になっていく時期になります。まちの基盤をしっかりと作り上げて、その上に住む人や訪れる人の幸せをつかっていくという長崎の未来づくりに、しっかりと取り組んでいきます。



# 6 個性を活かした交流の拡大

## 出島メッセ長崎の整備 (41 億 9,690 万円) MICE 誘致・受入の推進 (1,910 万円)

今年 11 月 1 日の開業に向けて、建設工事を進めます。また、MICE 商談会などで PR を行いながら、参加者をまちの中に呼び込み地域活性化につなげる「まち MICE」の取り組みを推進します。



# 7 暮らしやすく活力あふれるまちづくり



市営住宅 (イメージ)

## 既設公営住宅改善事業費・住戸改善事業費 (3 億 7,510 万円)

既設の市営住宅の機能を充実させるため、水回りや内装などを改善します。また、その一部を子育て世帯が住みやすい住戸へ改善し、供給します。



子育て支援センター (イメージ)

## 子育て支援センター利用料の無料化・新設 (8,820 万円)

子育て中の孤立感や負担感の軽減を図るため設置している子育て支援センターを、より気軽に利用していただけるよう、現在 100 円の利用料を無料にします。また、今年度は新たに 4 区域に開設します。

## 新産業・起業チャレンジ促進費 (1,527 万円)

新たな産業を創出するために、オープンイノベーション (さまざまな組織が持つ技術やアイデア、サービスなどを組み合わせて、革新的なビジネスモデル、製品、サービスの開発につなげるビジネス手法) を活用した新規事業や、新たな市場の開拓などを旨とする起業を支援します。

特集

市政

市民

フューチャー  
プレゼント

生活情報

子育て

福祉・健康

被爆者  
支援

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集